

これまでの議論と今後の方向性について

これまでのご議論では、社会保障の学習内容について、制度の内容というよりも、制度の根底にある支え合いの思想・哲学などを重視すべきとのご意見が多かった。

また、学習方法については、第2回検討会での参考人の先生方のお話も踏まえ、

- ・ 自ら主体的に考え、自分の考えをまとめ、ディベート等を含む意見交換を通じて理解が深まる「ワークシート形式」の活用に賛同する意見が多かった。

- ・ 一方で、年金を中心に社会保障制度の仕組みなどについて、正確な理解が若干難しい面があり、それらについては、ディベートの前に、基本的な仕組みを整理して教えることが必要という意見があった。

こうしたご議論を踏まえ、今後は、

○ 「ワークシート形式」を活用した学習項目・教材案

○ 上記以外の形式による学習項目・教材案

のそれぞれを検討していくことが必要ではないか。

1. 『学習すべき中身』に関連する主な意見

- 行政や国の役割・機能といったことから、身近な地域社会の中での一人ひとりの役割、助け合い、連帯というものを日常的にどのように子どもたちに考えてもらうか
- 制度の根底にある思想、哲学、原理が重要であり、その方が子どもたちの関心も高い
- これまで経済成長ということで、ずっとパイの拡大でやってこられた社会が、今、分配の問題とか社会の目標を何にするのかという非常に根底的なことが問われており、まさにそういったことと結びつけて教えるべき
- 社会保障以前に社会についてのイメージが貧しすぎる。自治の概念が知識的・実践的にも全く教えられ、学ばれていない
- 自分たちの社会の望ましいあり方何なのかを議論する、言い換えれば価値を訴えるようなコミュニケーションが必要
- 事務的・制度的な内容にあまり入らないようなものでいい

2. 『教え方』に関連する主な意見

- 世の中を理解していくためのいくつかのツールの一つが社会保障。どういう風に物事を組み立ててあげれば子どもたちに分かってもらえるのかを考えたい
- 他人事ではなく、自分が日本という社会の一員なんだということをどうしたら実感を持って考えてもらえるのか
- 社会保障というと「高齢者の問題」と遠い存在に感じてしまっている。そうではないということを意識しながら教える
- 企業の人や、地域の大人などの実体験に基づく話などは、非常に生徒を惹きつける
- ロールプレイ等で自分が主体的に考える、そういう授業も実施すべき
- 年金については、親の年代の理解も必要であり、親も一緒に学ぶことは効果的
- ワークシートの中身は、ディベートやブレインストーミングをする部分、自分の考えを文章にまとめる部分を入れると良い
- 社会保障は、「世の中の常識」と「実際」の間の乖離度合いが大きい。「天動説」と「地動説」くらいのレベルである。一般論ではディベートをはじめ、「考える教育の場」は非常に重要であるが、年金のようなテーマについては、スタートで勘違いしないよう、中立的に仕組みを整理して教えることも必要
- いわゆる専門家と言われている人達も含めて、皆が間違っていたというような、常識的にはあり得ないようなことが、社会保障においては起こっている。

3. 『教材の使われ方』に関連する意見

- ホームルームとか総合的な学習の時間もうまく使えるようなメッセージ性の高い教材が望ましい
- 「先生にとって使いやすい」という視点も重要。そういう意味では2時間程度の手頃な授業プログラムの方が取り入れられやすい。

4. その他

- 生徒側の社会保障に関する関心は一般的にかなり低い
- 教師側についても、
 - ・社会保障に関する関心は総じて低い、
 - ・制度への信頼感の不足等を理由として、どう教えて良いかわからない面があるのではないか
- 中高生で社会保障について学ぶ機会が非常に少なかったという大学生が多い
- 教科書の内容と大学入試の問題には高い相関関係があるため、学校としては生徒のためにたくさんの内容が載っている教科書を選んでしまう傾向となる